

～次代を担う力を持った人間の育成～



恩方中だより

ホームページ <http://hachioji-school.ed.jp/ongtj/>

八王子市立恩方中学校

令和8年8月25日発行

夏の特別号

校長 植田 恭正

【注意喚起】令和8年熊本地震を受けて ～身近で地震が起きたら～

令和8年熊本地震により 被害を受けられた皆様へ

このたびの熊本地震により被災された皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。

また、お亡くなりになられた方々に
謹んで哀悼の意を表するとともに、
ご遺族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。

一日も早い復旧・復興と、
皆様の安全、そして平穏な日常が
戻ることを心よりお祈り申し上げます。

八王子市立恩方中学校 教職員・生徒一同



このたびの令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、ご遺族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。一日も早い復旧・復興と、被災された皆様が安心して日常を取り戻されることを、教職員・生徒一同、心よりお祈り申し上げます。

今回の地震は、「災害はいつ、どこで起こるかわからない」ということを改めて私たちに教えてくれました。23日未明には関東地方（茨城県南部）でも震度5強（八王子市は震度3）の地震が発生しています。学校ではなく、自宅や外出先、旅行先などで地震が発生したら皆さんはどのように行動ができるでしょうか。どんな時にでも、一人一人が落ち着いて行動し、自分の命を守るための備えをしておくことが何よりも大切です。

① まずは自分の命を守る

大きな揺れを感じたら、慌てて外へ飛び出さず、机の下にもぐる、頭をバッグや両腕で守るなど、安全な姿勢をとりましょう。建物の中では窓ガラスや倒れてきそうな家具から離れ、

屋外ではブロック塀や電柱、自動販売機など倒れる危険があるものに近づかないようにしましょう。

② 揺れがおさまったら安全な場所へ

揺れがおさまったら周囲の安全を確認し、火災や建物倒壊の危険がある場合は落ち着いて避難してください。海や川の近くでは津波や増水の危険もあるため、自治体などの避難情報を確認し、速やかに安全な場所へ移動しましょう。

③ 家族と連絡を取ろう

災害時は電話がつながりにくくなることがあります。事前に家族と避難場所や集合場所、連絡方法を確認しておきましょう。災害用伝言ダイヤル（171）などの利用方法を知っておくことも大切です。

④ 正しい情報を確認する

SNS などには誤った情報が流れることもあります。気象庁や自治体、テレビ・ラジオなど、信頼できる情報を確認し、冷静に行動してください。

⑤ 日頃の備えが命を守る

飲料水や非常食、懐中電灯、モバイルバッテリー、救急用品などを家庭で確認し、避難場所や避難経路についても家族で話し合っておきましょう。日頃からの備えが、いざという時に自分や大切な人の命を守ります。

恩方中学校の生徒の皆さんへ

被災地で起きていることは、決して遠い地域だけの出来事ではありません。日本は地震の多い国であり、私たちの地域でもいつ大きな地震が起きても不思議ではありません。災害の時に一番大切なのは、自分の命を守ることです。

そして、自分の安全を確保できたら、家族や地域の方々、周囲で困っている人を思いやる気持ちを忘れず、助け合って行動してください。この機会に、ご家庭で防災について話し合い、避難場所や連絡方法、非常持出品などを確認してみましょう。

一人一人の備えが、自分自身だけでなく、大切な人の命を守ることにつながります。二学期に、皆さんが元気な笑顔で登校してくれることを、教職員一同、心から願っています。



災害に備えよう 情報伝達訓練 を実施します

 学校ホームページ
災害時情報掲示板訓練
9月1日(火) 9:00~11:00

 災害用伝言ダイヤル訓練
9月1日(火) 10:00~

⚠️ 正しい情報の確認方法を、今のうちに確認しておきましょう。

本校では、生徒の安全を守るため、地震や風水害など様々な災害を想定した安全教育・防災対策に取り組んでいます。その一環として、9月1日（火）に「災害時情報伝達訓練」を実施します。

今回の訓練では、大規模災害の発生により、通常の連絡手段が使用しにくくなった状況を想定します。

午前9時から11時まで、学校ホームページのトップページを「災害時情報掲示板」に切り替え、保護者の皆様に学校から発信される安否情報等を確認していただきます。災害発生時には、電話が集中して学校への連絡が困難になることも想定されるため、ホームページから正確な情報を得る方法を、平常時から確認しておくことが重要です。

また、午前10時から、NTT 東日本が提供する「災害用伝言ダイヤル（171）」を利用した訓練もあわせて実施します。「171」に電話し、「2（再生）」を選択した後、本校の電話番号を入力することで、学校が録音した伝言を確認していただきます。今回は確認方法を習得するための訓練ですので、確認結果を学校へ報告する必要はありません。

災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。「その時になってから確認する」のではなく、平常時に実際に操作しておくことが、いざという時の安心につながります。ぜひこの機会に、ご家庭でお子様と災害時の連絡方法や避難行動について話し合い、訓練へのご参加をお願いいたします。

災害時伝言ダイヤル 171

大きな災害が起きたとき、被災地の方の安否情報を音声で確認できます。

NTT

利用方法

 伝言を録音する
171 にダイヤル
↓
1 をダイヤル（録音）
↓
被災地の方の電話番号をダイヤル
↓
ガイダンスに従って伝言を録音

 伝言を再生する
171 にダイヤル
↓
2 をダイヤル（再生）
↓
被災地の方の電話番号をダイヤル
↓
ガイダンスに従って伝言を再生

ご利用について

- 大きな災害の発生時に提供が開始されます。
- 提供が終了すると、伝言の録音・再生はできなくなります。
- 携帯電話・PHS・公衆電話からでもご利用いただけます。
- 通話料は無料です。
- 詳しくは局番なしの「116」へ（通話料有料）

web171 もご利用いただけます
<https://www.web171.jp>
※一部の機種・環境ではご利用いただけません。

⚠️ 家族や大切な人の電話番号を、日ごろからメモしておきましょう。





8月6日広島に、9日長崎に原子爆弾が投下されてから81年を迎えます。

そんな中で、原爆で亡くなられた方々への慰霊と、社会科教員として改めて戦争と平和について学ぶため今年、数十年ぶりに広島を訪れました。

青い空と緑の中に立つ現在の原爆ドーム。しかし平和記念資料館に残された写真には、同じ場所とは思えないほど破壊された街が広がっています。その落差を目の前にすると、81年という歳月の重さと、今ある日常が決して当たり前ではないことを感じます。

原爆ドームや平和記念資料館には、日本人だけでなく、多くの外国人の姿がありました。国籍も言葉も異なる人々が展示の前で立ち止まり、81年前にここで何が起きたのかを知ろうとしていました。その光景はとても印象的でした。

1945年8月6日の広島、そして8月9日の長崎。そこで失われたのは、歴史の教科書に記された「数字」ではありません。一人ひとりに名前があり、家族があり、大切な人がいて、その日の朝まで続いていた生活がありました。それらが一瞬にして奪われたという事実を、

私たちは忘れてはなりません。



一方、社会科教員として歴史を考えると、大切にしてきたことがあります。それは、**歴史を一つの立場からだけ見ないことです。**

日本にとって8月は、広島・長崎をはじめ戦争で亡くなられた方々を慰霊し、平和を願う大切な時期です。しかし、日本との戦争によって大きな被害を受けた国や地域から見れば、戦争の終結を「勝利」や「解放」として記憶している人々もいます。見学に訪れていた外国人の方々によっては、同じ展示物でも見え方が違っていただと思います、同じ出来事でも、どこに立つかによって、その意味は違って見えることがあります。



8月6日 広島・8月9日 長崎 原爆の日に寄せて

81年前を、ただの「昔」にしない。

知り、考え、想像し、そして伝えていく。

もちろん、これは戦争の歴史と物語を同じものとして扱うということではありません。しかし、相手には相手の歴史があり、悲しみがあり、そこから見えている世界がある——そのことを想像する力は、歴史を学ぶ上でも、日々を生きる上でも大切なのだと思います。

81年が過ぎた現在も、核兵器は世界からなくなってはいません。世界の大きな問題を、私たち一人の力ですぐに解決することはできません。それでも、できることがあります。



知ること。



忘れないこと。



相手の立場を想像すること。



そして、学んだことを次の世代へ伝えること。

広島・長崎で失われた多くの尊い命に、心から哀悼の意を表します。
平和を未来へつなぐために、恩方中学校も学び続けていきます。



恩方中学校

最近公開された「ちいかわ」の映画を観た際にも、思いがけず似たことを考えました。作品の具体的な内容に触れることは控えますが、登場する者たちには、それぞれ守りたいものがあり、それぞれの事情や悲しみがあります。一方から見れば正しいと思える行動も、別の側から見れば全く違ったものに映る。かわいらしい世界の物語でありながら、「立場が変われば、見えている正義も変わることがある」ということを考えさせられました。

もちろん、これは戦争の歴史と物語を同じものとして扱うということではありません。しかし、相手には相手の歴史があり、悲しみがあり、そこから見えている世界がある——そのことを想像する力は、歴史を学ぶ上でも、日々を生きる上でも大切なのだと思います。

81 年が過ぎた現在も、核兵器は世界からなくなっているとはいえません。世界の大きな問題を、私たち一人の力ですぐに解決することはできません。

それでも、できることがあります。

知ること。忘れないこと。相手の立場を想像すること。

そして、学んだことを次の世代へ伝えること。

写真に残る焼け野原の広島と、青空の下に立つ現在の原爆ドーム。その二つの風景の間には、「二度と繰り返してはならない」と願い続けてきた人々の 81 年間があります。

8 月 6 日広島、9 日長崎で失われた多くの尊い命に、心から哀悼の意を表します。

81 年前を、ただの「昔」にしない。

誰かの正義だけで歴史を見ない。

知り、考え、想像し、そして伝えていく。

それが、今を生きる私たちにできる慰霊であり、平和への小さくても確かな一歩なのだと思います。

